

平成25年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>ほんじょう</sup>本庄 <sup>しげる</sup>繁 1876～1945年 《  
—兵庫県出身の陸軍大将—



対支作戦は如何なる動機にて勃発するやの研究 (登録番号：陸軍省-密大日記-S2-6-14)

本庄繁大将は、明治30年11月、陸軍士官学校(9期)を卒業後、歩兵第11連隊長、第10師団長、関東軍司令官などの要職を歴任しました。この史料は、支那に勤公使館付武官であった本庄少将が、陸軍次官畑英太郎中将に提出した長文の報告書「対支作戦ハ如何ナル動機ニテ勃発スルヤノ研究」(昭和2年11月20日付)です。研究は、対支作戦を「経済的原因ニヨリ発生スル場合」と「政略上変態的原因及思想的影響、感情、体面等ノ原因ニヨリ発生スル場合」とに区分して考察した後、「『帝国ハ支那ト戦ハサルヲ本旨トス』テフ根本原理ハ如何ナル場合ニ於テモ厳呼(ママ)トシテ動カスヘカラス」、「紛々トシテ発生スル各種ノ事態ニ処シ違算ナキヲ期スルノ用意肝要ナルヲ痛感ス」としています。



満州事変の本質 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-563)

「満州事変ノ本質(本庄繁手記)」(昭和20年10月上旬誌)と題するこの史料は、本庄大将が陸軍大学校校内で自決した昭和20年11月20日のおよそ一、二カ月前、いずれ戦犯に問われることを覚悟し、満州事変当時の関東軍司令官としての真相を明らかにするため、秘書の川村享一に口述したものです。この史料の「はしがき」には、「満州事変ニ関スル余自身ノ記録、資料等ハ戦災ニ遭ツテ悉ク焼失シタ、仍テ余ノ記憶ヲ辿リツツ手記スルノ余儀ナイ次第アルガ、(中略)該事変ノ真相並ニ、コレニ対処セル余ノ信念等ノ本質ニ於テハ毫モ誤リナイコトヲ確信スル」と記されています。極東国際軍事裁判に重要参考資料として提出されたこの史料には、満州事変及び満州国建国に対する本庄大将の見解が詳述されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>